

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2021.4.26-5.2

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

9:27 そこでパロは使いをやって、モーセとアロンを呼び寄せ、彼らに言った。「今度は、私は罪を犯した。主は正しいお方だ。私と私の民は悪者だ。

9:28 主に祈ってくれ。神の雷と雹は、もうたくさんだ。私はおまえたちを行かせよう。おまえたちはもう、とどまってはならない。」

9:29 モーセは彼に言った。「私が町を出たら、すぐに主に向かって手を伸べ広げましょう。そうすれば雷はやみ、雹はもう降らなくなりましょう。この地が主のものであることをあなたが知るためです。

9:30 しかし、あなたとあなたの家臣が、まだ、神である主を恐れていないことを、私は知っています。」

9:31 ・・亜麻と大麦は打ち倒された。大麦は穂を出し、亜麻はつぼみをつけていたからである。

9:32 しかし小麦とスペルト小麦は打ち倒されなかった。これらは実るのがおそいからである。・・

9:33 モーセはパロのところを去り、町を出て、主に向かって両手を伸べ広げた。すると、雷と雹はやみ、雨はもう地に降らなくなった。

9:34 パロは雨と雹と雷がやんだのを見たとき、またも罪を犯し、彼とその家臣たちは強情になった。

9:35 パロの心はかたくなになり、彼はイスラエル人を行かせなかった。主がモーセを通して言われたとおりである。

ひょうが甚大な被害をおよぼし、困り果てたパロはイスラエルの民が出てゆくのを認めました。しかし、モーセの言うとおりで、彼は本当に主を恐れて

はいないのです。すなわち、困難が過ぎ去るとまた強情になったのです。

このように人は何か困ったことがあると、神を求めます。また神から何か罰を受けたと感じると、そのときは神に従おうとします。しかし、神をこわがるだけで、神を敬い畏れているのでなければ、問題が解決すると、また神を無視してしまうのです。

それはいずれにしても、自分中心、自分のためというのは変わらないからです。本当に神を敬いましょう。また、人を見るときには、その人の表面的な部分だけではなく、心から神を敬っているかどうかを見るようにしましょう。その上で、その人に必要な、その人の信仰にとって有益なことをもたらしてあげるようにしましょう。

愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、



27日 火曜

出エジプト

10:1 主はモーセに仰せられた。「パロのところにいけ。わたしは彼とその家臣たちを強情にした。それは、わたしがわたしのこれらのしるしを彼らの中に、行なうためであり、
10:2 わたしがエジプトに対して力を働かせたあのことを、また、わたしが彼らの中で行なったしるしを、あなたが息子や孫に語って聞かせるためであり、わたしが主であることを、あなたがたが知るためである。」
10:3 モーセとアロンはパロのところに行き、彼に言った。「ヘブル人の神、主はこう仰せられます。『いつまでわたしの前に身を低くすることを拒むのか。わたしの民を行かせ、彼らをわたしに仕えさせよ。』
10:4 もし、あなたが、わたしの民を行かせることを拒むなら、見よ、わたしはあす、いなごをあなたの領土に送る。
10:5 いなごが地の面をおおい、地は見えなくなる。また、雷の害を免れて、あなたがたに残されているものを食い尽くし、野に生えているあなたがたの木をみな食い尽くす。
10:6 またあなたの家とすべての家臣の家、および全エジプトの家に満ちる。このようなことは、あなたの先祖たちも、そのまた先祖たちも、彼らが地上にあった日からきょうに至るまで、かつて見たことのないものであろう。』」こうして彼は身を返してパロのもとを去った。
10:7 家臣たちはパロに言った。「いつまでこの者は私たちを陥れるのですか。この男たちを行かせ、彼らの神、主に仕えさせてください。エジプトが減びるのが、まだおわかりにならないのですか。」



10:8 モーセとアロンはパロのところに連れ戻された。パロは彼らに言った。「行け。おまえたちの神、主に仕えよ。だが、いったいだれが行くのか。」
10:9 モーセは答えた。「私たちは若い者や年寄りも連れて行きます。息子や娘も、羊の群れも牛の群れも連れて行きます。私たちは主の祭りをするのでありますから。」
10:10 パロは彼らに言った。「私がおまえたちとおまえたちの幼子たちとを行かせるくらいなら、主がおまえたちとともにあるように、とでも言おう。見ろ。悪意はおまえたちの顔に表われている。
10:11 そうはいかない。さあ、壮年の男だけ行って、主に仕えよ。それがおまえたちの求めていることだ。」こうして彼らをパロの前から追い出した。

家臣はパロにイスラエルを行かせるように進言しました。ここにきては王の威信も崩れかけているようです。それでも権力者は自分の欲を引き下げようとはしません。そこで彼は姑息な折衷案を出します。壮年の男だけを連れて行けというのです。家族を人質にするようなものです。
ここではいなごの被害がもたらされることが宣言されていますが、それでもこのようにパロはかたくなであったのです。神を初めから信じないと思う人はこのようで、あらゆる理屈、あらゆる逃げ口上を考えて、神を否定する方向に結論付けます。その結論が先に決まっているのです。
そのような事態に直面しても、モーセのようにただ神様に従って対処しましょう。神様の御力にのみ頼りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主に扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



10:12 主はモーセに仰せられた。「あなたの手をエジプトの地のの上に差し伸ばせ。いなごの大群がエジプトの地を襲い、その国のあらゆる草木、雹の残したすべてのものを食い尽くすようにせよ。」

10:13 モーセはエジプトの地のの上に杖を差し伸ばした。主は終日終夜その地のの上に東風を吹かせた。朝になると東風がいなごの大群を運んで来た。

10:14 いなごの大群はエジプト全土を襲い、エジプト全域にとどまった。実におびただしく、こんないなごの大群は、前にもなかったし、このあとにもないであろう。

10:15 それらは全地の面をおおったので、地は暗くなった。それらは、地の草木も、雹を免れた木の実も、ことごとく食い尽くした。エジプト全土にわたって、緑色は木にも野の草にも少しも残らなかった。

10:16 パロは急いでモーセとアロンを呼び出して言った。「私は、おまえたちの神、主とおまえたちに対して罪を犯した。

10:17 どうか今、もう一度だけ、私の罪を赦してくれ。おまえたちの神、主に願って、主が私から、ただこの死を取り除くようにしてくれ。」

10:18 彼はパロのところから出て、主に祈った。

10:19 すると、主はきわめて強い西の風に変えられた。風はいなごを吹き上げ、葦の海に追いやった。エジプト全域に、一匹のいなごも残らなかった。

10:20 しかし主がパロの心をかたくなにされたので、彼はイスラエル人を行かせなかった。

現代でもいなごの大群は大地のあらゆるものを食いつくし、飢饉をもたらします。緑色が全くなくなってしまったことが書かれています。そのようないなごを去らせるのも神様で、自然のように見えますが、神様が風を起こされていなごをさらせました。

一度はイスラエルを去らせるように認めたパロでしたが、難が去るとここでもまた強情になってしまいました。彼の心が神の厄難をこわがっているだけであり、心から神を敬っているのではないことが分かります。そのような人はどんなことが何度続いても変わらないのです。

これは人の強情な姿であり、神から離れて自己中心になって人の姿です。実は私たちも神様の聖霊によらなければ、このパロと同じだったのです。神様に感謝しつつ、自分自身の強情さをも認めて謙遜になりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



29日 木曜

出エジプト

10:21 主はモーセに仰せられた。「あなたの手を天に向けて差し伸べ、やみがエジプトの地のの上に来て、やみにさわられるほどにせよ。」

10:22 モーセが天に向けて手を差し伸ばしたとき、エジプト全土は三日間真っ暗やみとなった。

10:23 三日間、だれも互いに見ることも、自分の場所から立つこともできなかった。しかしイスラエル人の住む所には光があった。

10:24 パロはモーセを呼び寄せて言った。「行け。主に仕えよ。ただおまえたちの羊と牛は、とどめておけ。幼子はおまえたちといっしょに行ってもよい。」

10:25 モーセは言った。「あなた自身が私たちの手にいけにえと全焼のいけにえを与えて、私たちの神、主にささげさせなければなりません。」

10:26 私たちは家畜もいっしょに連れて行きます。ひづめ一つも残すことはできません。私たちは、私たちの神、主に仕えるためにその中から選ばなければなりません。しかも私たちは、あちらに行くまでは、どれをもって主に仕えなければならぬかわからないのです。」

10:27 しかし、主はパロの心をかたくなにされた。パロは彼らを行かせようとはしなかった。

10:28 パロは彼に言った。「私のところから出て行け。私の顔を二度と見ないように気をつける。おまえが私の顔を見たら、その日に、おまえは死ななければならない。」

10:29 モーセは言った。「結構です。私はも



う二度とあなたの顔を見ません。」

エジプトでは太陽が神格化されて信仰の対象でしたが、その太陽の神にさばきが下されたことを思わせませす。全く太陽が役に立たなくなったのです。このやみは「さわられるほど」と表現されます。おそらくこの地方特有の砂嵐であったと思われませす。

こらはひどいときには全く視界がさえぎられ、互いに見ることもできなくなるのです。当然さわられるほどに存在感のある闇です。しかしイスラエルの居住区では、地形や風の向きなどからでしょうが、その被害は小さく留められました。

パロはイスラエルを去らせると言いましたが、家畜はとどめておけと命じました。彼らの財産目当てです。権力者の欲がここに出ています。結果、彼の心はかたくなになりました。

このように人は神様の聖霊の助けがなければ、どこまで行ってもかたくななままです。人は初めから神を認めないことを決めていますから、何が起きてても、論破されても、さばきがあっても、恵みがあっても同じなのです。ですから私たちは神様に祈りませす。救いには神様のあわれみを求めるしかありません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



11:1 主はモーセに仰せられた。「わたしはパロとエジプトの上になお一つのわざわいを下す。そのあとで彼は、あなたがたをここから行かせる。彼があなたがたを行かせるときは、ほんとうにひとり残らずあなたがたをここから追い出してしまおう。」

11:2 さあ、民に語って聞かせよ。男は隣の男から、女は隣の女から銀の飾りや金の飾りを求めるように。」

11:3 主はエジプトが民に好意を持つようにされた。モーセその人も、エジプトの国でパロの家臣と民と非常に尊敬されていた。

11:4 モーセは言った。「主はこう仰せられます。『真夜中ごろ、わたしはエジプトの中に出て行く。』

11:5 エジプトの国の初子は、王座に着くパロの初子から、ひき臼のうしろにいる女奴隷の初子、それに家畜の初子に至るまで、みな死ぬ。

11:6 そしてエジプト全土にわたって、大きな叫びが起こる。このようなことはかつてなく、また二度とないであろう。』

11:7 しかしイスラエル人に対しては、人から家畜に至るまで、犬も、うなりはしないでしよう。これは、主がエジプト人とイスラエル人を区別されるのを、あなたがたが知るためです。

11:8 あなたのこの家臣たちは、みな、私のところに来て伏し拝み、『あなたとあなたに従う民はみな出て行ってください。』と言うでしょう。私はそのあとで出て行きます。」こうしてモーセは怒りに燃えてパロのところから出て行った。

11:9 主はモーセに仰せられた。「パロはあなたがたの言うことを聞き入れないであろう。それはわたしの不思議がエジプトの地で多くなるためである。」

11:10 モーセとアロンは、パロの前でこれらの不思議をみな行なった。しかし主はパロの心をかたくなにされ、パロはイスラエル人を自分の国から出て行かせなかった。

「主はエジプトが民に好意を持つようにされた。モーセその人も、エジプトの国でパロの家臣と民と非常に尊敬されていた。」とあります。ここに信仰者の姿があります。権力者に敵対されていたとしても、私たちの生き方が正しく愛があれば、人々からは好意を感じてもらえます。それは神様を証しすることになります。

また「パロはあなたがたの言うことを聞き入れないであろう。それはわたしの不思議がエジプトの地で多くなるためである。」とあります。祈ってもなかなか答えがないときもあります。事態が悪くなる場合もあります。しかしそれは、神様の力が明確になるためなのです。神様のみわざは私たちの個人的な目的のためだけではありません。神様の栄光を表すためです。であるなら、そのような神様のわざに期待しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1日 土曜

出エジプト

12:1 主は、エジプトの国でモーセとアロンに仰せられた。
12:2 「この月をあなたがたの月の始まりとし、これをあなたがたの年の最初の月とせよ。
12:3 イスラエルの全会衆に告げて言え。この月の十日に、おのおのその父祖の家ごとに、羊一頭を、すなわち、家族ごとに羊一頭を用意しなさい。
12:4 もし家族が羊一頭の分より少ないなら、その人はその家のすぐ隣の人と、人数に応じて一頭を取り、めいめいが食べる分量に応じて、その羊を分けなければならない。
12:5 あなたがたの羊は傷のない一歳の雄でなければならない。それを子羊かやぎのうちから取らなければならない。
12:6 あなたがたはこの月の十四日までそれをよく見守る。そしてイスラエルの民の全集会は集まって、夕暮れにそれをほふり、
12:7 その血を取り、羊を食べる家々の二本の門柱と、かもいに、それをつける。
12:8 その夜、その肉を食べる。すなわち、それを火に焼いて、種を入れないパンと苦菜を添えて食べなければならない。
12:9 それを、生のままで、または、水で煮て食べてはならない。その頭も足も内臓も火で焼かなければならない。
12:10 それを朝まで残してはならない。朝まで残ったものは、火で焼かなければならない。
12:11 あなたがたは、このようにしてそれを食べなければならない。腰の帯を引き締め、足に、くつをはき、手に杖を持ち、急いで食べなさい。これは主への過越のいけにえである。



12:12 その夜、わたしはエジプトの地を巡り、人をはじめ、家畜に至るまで、エジプトの地のすべての初子を打ち、また、エジプトのすべての神々にさばきを下そう。わたしは主である。
12:13 あなたがたのいる家々の血は、あなたがたのためにしるしとなる。わたしはその血を見て、あなたがたの所を通り越そう。わたしがエジプトの地を打つとき、あなたがたには滅びのわざわいは起こらない。

神様はその權威によって、まだ事が起こる前からイスラエルの民に、記念とすることを命じておられます。神様の全能がここにも表されています。これは過ぎ越しと呼ばれる出来事で、信じて羊の血に頼る者は、滅びを過ぎ越すことができるということです。それはまさにイエス様の十字架の赦しと救いを表しています。

このように旧約において十字架の雛形が明らかにされているのは、十字架の意味が明らかになるためです。十字架とはアクシデントではないのです。神様のご計画の確かな成就であるということです。

そしてそのことを月の始まりとして、生きる原点にするように命じておられます。私たちも十字架を原点として生きましょう。

苦菜はエジプトでの苦難を忘れないため、急いで食べるのは、救いの緊急性を表します。私たちも苦ししいところから、または恐ろしい滅びから救われたのだということと思しましょう。また救いの時には、今しかなかったという神様のタイミングであったことを覚えましょう。そして感謝して一生涯忘れないようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2日 日曜

出エジプト



12:14 この日は、あなたがたにとって記念すべき日となる。あなたがたはこれを主への祭りとして祝い、代々守るべき永遠のおきてとしてこれを祝わなければならない。

12:15 あなたがたは七日間種を入れないパンを食べなければならない。その第一日目に、あなたがたの家から確かにパン種を取り除かなければならない。第一日から第七日までの間に種を入れたパンを食べる者は、だれでもイスラエルから断ち切られるからである。

12:16 また第一日に聖なる会合を開き、第七日にも聖なる会合を開かなければならない。この期間中、どんな仕事もしてはならない。ただし、みな食べなければならないものだけは作ることができる。

12:17 あなたがたは種を入れないパンの祭りを守りなさい。それは、ちょうどこの日に、わたしがあなたがたの集団をエジプトの地から連れ出すからである。あなたがたは永遠のおきてとして代々にわたって、この日を守りなさい。

12:18 最初の月の十四日の夕方から、その月の二十一日の夕方まで、種を入れないパンを食べなければならない。

12:19 七日間はあなたがたの家にパン種があってはならない。だれでもパン種のはいったものを食べる者は、在留異国人でも、この国に生まれた者でも、その者はイスラエルの会衆から断ち切られるからである。

12:20 あなたがたはパン種のはいったものは何も食べてはならない。あなたがたが住む所ではどこでも、種を入れないパンを食べなければならない。」

12:21 そこで、モーセはイスラエルの長老たちをみな呼び寄せて言った。「あなたがたの家族のために羊を、ためらうことなく、取り、過越のいけにえとしてほふりなさい。

12:22 ヒソブの一束を取って、鉢の中の血に浸し、その鉢の中の血をかもいと二本の門柱につけなさい。朝まで、だれも家の戸口から外に出てはならない。

12:23 主がエジプトを打つために行き巡られ、かもいと二本の門柱にある血をご覧になれば、主はその戸口を過ぎ越され、滅ぼす者があなたがたの家にはいって、打つことがないようにされる。

12:24 あなたがたはこのことを、あなたとあなたの子孫のためのおきてとして、永遠に守りなさい。

12:25 また、主が約束どおりに与えてくださる地にはいるとき、あなたがたはこの儀式を守りなさい。

12:26 あなたがたの子どもたちが『この儀式はどういう意味ですか。』と言ったとき、

12:27 あなたがたはこう答えなさい。『それは主への過越のいけにえだ。主がエジプトを打ったとき、主はエジプトにいたイスラエル人の家を過ぎ越され、私たちの家々を救ってくださったのだ。』すると民はひざまずいて、礼拝した。

12:28 こうしてイスラエル人は行って、行なった。主がモーセとアロンに命じられたとおりに行なった。

種を入れないパンは罪のない純粋な信仰を表します。私たちはそのような信仰でイエス様の十字架を生けいれたのです。その信仰の尊さを忘れないようにしましょう。

聖なる会合を開くようにと命じられています。救いを忘れずに感謝することを、単に個人の心の中だけでなく共同体として続けてゆくようにということです。このように救いを心に刻むのです。私たちにとっては礼拝がそれであり、またクリスマスやイースターなどの礼拝がそれです。

いけにえは、救いのためには血を流して、罪を負う身代わりが必要であることを表します。イエス様の十字架の現実を覚えましょう。私たちにとっては聖餐がそれにあたります。

主の十字架を子孫に、また次世代に伝えるためにも、その現実性を覚えるための礼拝を熱心に守り、そこを原点としてゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

